大　会　決　議

宮城県最北東部に位置する本市唐桑地域は，養殖漁業をはじめとする沿岸漁業が盛んなほか，三陸復興国立公園を代表する巨釜・半造など，リアス式海岸特有の風光明媚な海岸線や景勝地を有し，昨年「宮城オルレ気仙沼・唐桑コース」がオープンするなど，観光振興においても，重要かつ今後の発展が大きく期待されております。

しかしながら，多くの観光スポットや行政庁舎のある唐桑半島へのアクセスは，三方を海で囲まれた半島特有の地勢から，国道４５号を経由する一般県道馬場只越線と主要地方道気仙沼唐桑線の２路線に限られております。

東日本大震災では，双方の路線が津波により至る所で寸断され，唐桑地域は長期間にわたって孤立状態が続いたところです。

特に，主要地方道気仙沼唐桑線は，唐桑半島から市中心部へのアクセス道として，地域住民の日常利用や，周辺観光道路として重要な役割を担っておりますが，狭隘で，急カーブや急勾配が連続しているため，救急搬送にも適さない上，一般の通行にも支障をきたしている交通の難所となっています。

震災後，津波対策を踏まえた基盤整備は進んでおりますが，災害時の緊急輸送路「命をつなぐ道」としての役割も担う，同路線の舞根から浪板まで約４．５㎞の区間については，未だに，整備計画の見通しが示されていない路線となっております。

同路線の整備は，交通の難所を解消し，安全性を確保することに留まらず，市中心部や仙台方面との最短の路線となり，日常生活における利便性の向上，救急搬送時間の短縮，周遊観光の促進など，地域の振興に大きな効果をもたらすとともに，県土の均衡ある発展に寄与するものです。

更に，三陸沿岸道路の唐桑地内に存在するインターチェンジは，「（仮称）唐桑南ＩＣ」，「唐桑小原木ＩＣ」とも南向きハーフＩＣであり，唐桑地域，とりわけ，唐桑半島から同沿岸道路北方面へのアクセスは，利便性を欠く状況にあります。

このことから，北向きハーフＩＣである「（仮称）気仙沼北ＩＣ」と接続可能で，かつ，最短時間でアクセスできる本路線を整備することは，不可欠であります。

このようなことから，主要地方道気仙沼唐桑線の唐桑町馬場から浪板までの区間を「気仙沼・唐桑最短道」と称し，本大会参加者の総意に基づき，次の事項を強く要望いたします。

一．県の新たな道路整備プログラムである「新みやぎの道づくり計画」において「気仙沼・唐桑最短道」の整備に関する事項を明記すること。

一．「気仙沼・唐桑最短道」の未整備区間の早期事業化を図ること。

以上のとおり決議いたします。

令和元年９月２９日

気仙沼・唐桑最短道整備促進総決起大会